

夜空にきらめく大輪の花

慶野松原花火大会

手を伸ばせば届きそうなほど間近で上がる花火。3,100発の打ち上げ花火が、色鮮やかに夏の夜空を彩ります。慶野松原の浜辺に陣取って、夏の風物詩「花火」をご覧になってはいかがでしょうか。

●日時 7月25日(土) 18:30~20:45

●場所 慶野松原海水浴場周辺 ※荒天時翌日順延

※駐車場に限りがありますので、乗り合わせてご来場ください。

福良湾海上花火大会



●日時 8月12日(水)~14日(金)

※12・13日=盆踊り、14日=大綱曳・花火大会ほか(詳細は広報8月号に掲載)

●場所 福良湾周辺

◀ 300mの綱を引く大綱曳

市民まつり協賛金について(注意)

花火大会の実行委員会では、事業所等に協賛金のご協力をお願いしています。主催者からの「協賛金」は「祭りの紹介と称する『新聞広告宣伝』とは、一切関係ありません。

祭りに関するの広告宣伝、協賛依頼で何か疑問を感じられましたら、商工観光課にお問い合わせください。

花火大会実行委員会事務局

商工観光課 ☎ 37-3012

18:30~19:00 子ども太鼓、トランポ・ロビクス
19:35~20:00 南あわじ太鼓衆「葦」
20:00~20:45 花火打ち上げ

『続三原郡史』

郡史の拾い読み 知っておきたい...

地名の由来

その1



神代 (じんだい)

「くましろ」から「じんだい」

『和名抄』に三原郡神代郷があり、「久万之呂」と訓じている。「くましろ」と読む。「淡路国太田文」には鎌倉時代の国衙領として「東神代保」、「西神代郷」の名が出ている。明治10年、地頭方、喜来、富田、黒道村が合併して神代村が成立した。その後、明治22年の町村制施行によって、国衙村、上田村、神代村が合併して神代村が成立した。その時から、現地の人は、神代と神代を区別するため、神代を「くましね」と呼ぶようになったと考えられる。成立当初の神代村から、公式に県を通じ政府(内務省)に届けた村名の読み方は、「くましろ」であった。しかし、現地の人びとは、「くましろ」という平安時

代々の難しい古訓になじまず、分かりやすい「じんだい」と音読する人が多かったからではなからうか。三原郡の人が遠隔地から神代村に電報を打つとき、「ジндаイムラ」と書くと、郵便局でそれを受け付けてもらえなかったという逸話があった。しかし、明治末年ごろには、「じんだい」が公に認められるようになったのではなからうか。なお、上田という地名は、論鶴羽神社か上田八幡神社の「神代」の意である。

第7編 各説 地名の改変
三原郡の大字名と冠称の由来から抜粋

市内書店にて好評販売中!
『続三原郡史』
編集事務局
市長公室 ☎ 43・5002

広報南あわじ 2009年7月1日 No.54 編集発行 南あわじ市総務部情報課 〒656-0942 兵庫県南あわじ市善光寺18番地27

URL: <http://www.city.minamiiwajima-hyogo.jp/>
E-mail: kouhou@city.minamiiwajima-hyogo.jp
TEL: (0799) 43-5003 FAX: (0799) 43-5103